

吹き込んだ春風さん



病院の「初めまして」を届けます！

トレーニング用の人形を使い、様々な新人看護研修を行います！

四月に入り、看護部は新人看護師十一名を迎え清々しい新年のスタートを切りました。新人看護師には毎年二日間の集合技術研修があります。研修では注射や吸引などの方法について看護主任から手取り足取りの指導を受けました。最初は緊張の面持ちでしたが、二日目には全員笑顔になり、それぞれの現場に巣立って行きました。今回の研修は、新人が一年間に経験すべきことの二割に過ぎません。ほとんどの教

新潟医療センターニュース

第4号

発行 JA新潟厚生連
新潟医療センター
発行責任者 田中憲一

新年度を迎え、消費税8%導入で家計は厳しくなりましたが、桜の国二ッポンを満喫し、気分は上々です。医療センターにも沢山の新しい春風が吹き込んでいます。新事務長・新看護部長に春らしいコメントを頂きました。さらに、二月からスタートした病理センターも軌道にのりはじめましたので、病理部長の内藤眞先生にお話を伺いました。

新看護部長に聞く！

初々しい新人看護師を迎えて

四月に入り、看護部は新人看護師十一名を迎え清々しい新年のスタートを切りました。

新人看護師には毎年二日間の集合技術研修があります。研修では注射や吸引などの方法について看護主任から手取り足取りの指導を受けました。最初は緊張の面持ちでしたが、二日目には全員笑顔になり、それぞれの現場に巣立って行きました。

育は現場で患者さんとの触れ合いを通して行われていきます。ちょうど今の時期は新人の初々しさと先輩の生き生きとした指導の声に、現場は活気に満ちています。患者さんはじめ、お越しいただく皆様にはぜひともこのパワーを感じていただきたいと思っています。皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ともに成長を見守っていただければと思います。

新事務長に聞く！

地域医療に向けての意気込み



新潟医療センターは、平成二十一年十月の開院以降、産科及び分娩の取扱い再開、病理センターの設置などの大きな内部改修を伴う診療機能の拡充を行ってまいりました。全国的な医師不足の中にあっても、年々医師の充足を進め、診療機能の強化をはかっております。地域の医療ニーズに対応していくため、今後も更なる診療機能強化の検討を進めてまいりますので、ご期待いただきたいと思っております。

最後に、事務長一年生ですが今後も新潟医療センターの発展、ひいては地域医療の向上のために、精一杯努力をしてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

事務長 栗林 俊悟

病院における病理の役割について

平成二十六年二月、新潟医療センターに病理診断科(病理センター)が新設されました。この機会に病院で病理が果たしている役割について説明させていただきます。

病理は重要な検査部門です。例えば、胃の病気が疑われて内視鏡検査を受けた場合に、医師はあやしい所を狙って小さな組織を採取します。その組織は病理診断科に届けられ、種々の処理の後パラフィンに埋められます。パラフィン内の組織を薄く切ったスライドガラスに貼り付け、染色します。病理医はでき上がった標本を顕微鏡で観察し、ポリープ、がん、胃炎、胃潰瘍などと診断します。診断をもとにして主治医は治療方針を決定します。手術になった場合は、摘出された組織の標本を作り、詳しく調べ、主診医に報告します。手術後の治療を決めるためにも病理診断は重要です。

組織を凍結してすぐに標本を作り、診断することもあります(迅速診断)。手



病理センターのスタッフ一同

術中に結果がわかりますので、執刀医は切除範囲などをその場で的確に決めることができます。喀痰や尿などから細胞を集めてがん細胞などを見つけ出す「細胞診」も病理検査のひとつです。細胞診は方法が簡単なので、健康診断でも活用されています。

がん細胞はいくつかの特徴的な物質を持っています。それに対する抗体を用いて免疫染色を行い、病理診断に役立てる事ができます。最近では乳がんや胃がんに対して抗体を用いた治療をするようになってきました(分子標的治療)。病理検査の結果によって患者さんに適した治療を選ぶことができます。このように病理は先端医療への橋渡しをしています。


医療の進歩に伴って、病理検査は増加の一途を辿っています。本院では病理診断科の開設によってスピーディな対応が可能になりました。私も病理検査を通じて新潟医療センターの充実を図り、地域の皆様に一層信頼される病院となるよう努めてまいります。

病理部長 内藤 眞

(裏面もご覧ください)


新任医師紹介

この春赴任致しました医師をご紹介します。




地域の皆さんの、お腹の健康を守るために頑張っていますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

消化器内科
五十嵐 正人



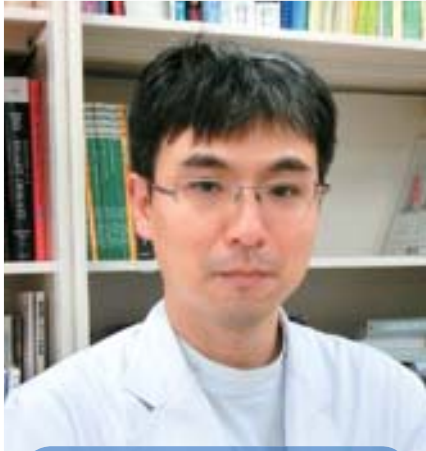
吉澤と申します。専門は呼吸器内科です。患者さん中心の診療、そして地域医療への貢献を心がけていきたいと思っております。何とぞよろしくお願いいたします。

副院長
吉澤 弘久




本年3月新潟大学消化器内科を退任し、4月より本院消化器病センター長を拝命しました。専門は肝臓病で皆様の健康増進につくす覚悟です。よろしくお願い申し上げます。

消化器病センター長
青柳 豊




医師となって8年目ですが、新潟市で働くのは初めてで少し緊張しています。宜しくお願いいたします。

小児科
仲牟礼 道秀




脳卒中や物忘れなど神経をみる内科です。救急対応から在宅支援まで、患者さんとご家族に寄り添って対応いたします。

神経内科
荒川 武蔵



病気が治る事も大切ですが、豊かな人生が送れる様な治療を心がけたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

循環器内科
岡田 慎輔



消化器内科の様々な分野で患者さんの病気の改善に尽力していきたいと思っております。宜しくお願いいたします。


消化器内科
田村 康

四月から臨床研修医として勤務しております木村淳史です。私は薬剤師として働いた経験もあり、薬学と医学の両方の視点から医療を行える医師を目指しております。不慣れたため皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯努力してまいりますので、宜しくお願い致します。

研修医 木村 淳史

充実した日々を送っています


新潟医療センターの研修が



薬学と医学の視点から医療を行える医師を目指す

研修医の先生が、当院にも四名配属となりました。代表して、木村先生と斎藤先生に熱く語って頂きました。

がんばれ 研修医





上堰瀧公園の桜と菜の花

編集後記

今年の桜の開花時期は暖かで、皆さんもお気に入りの花見スポットを満喫出来たのではないのでしょうか。これからは新緑のまぶしい季節となります。運動不足には自然を楽しみながらの散歩が一番ですね。

始まり、三週間が経とうとしています。温かいスタッフの方々に囲まれ、めいっぱい勉強する充実した日々を送っています。これから多くの患者さんの助けになれるよう、頑張っていきたいと思っております。

研修医 斎藤 勝仁

